

温故知新

(古代文明のおこり)

No. 7

[黄河文明]

(紀元前1500年頃)

[] 中流の黄土地帯に () 王国が成立

- () の文化
- () によって政治や祭りなど重要なことを決めた。
- () 文字を使用
[漢字のもと]

紀元前1100年頃 殷の西方に () がおこり、殷を滅ぼす

- 南の () 流域まで勢力を伸ばす
- 一族や家臣に土地を与え、各地の支配を任せた

これらの文明を [] という。

紀元前8世紀頃から 各地の支配者が力を強め、互いに争う。
() 時代)

[] の農具が広まり、農業の生産が高まる。
商工業活動も活発化。

ゆれ動く時代→→新しい生き方が求められる

↓

↓

多くの思想家の出現

[] の []

人々が行いを正しくすれば国がよくなる

春秋戦国時代

周の力が衰えると、実力者が各地に王となって互いに争った。諸国は富国強兵策をとって生産を高め、商工業を発達させた。貨幣もそれまでの宝貝にかわって青銅貨幣が用いられた。諸国では役人が台頭して国を強化するための改革を進めたが、そのためにも新しい考え方が必要とされた。こうした必要に応えて、多くの思想家が生まれてきたのである。

儒教

孔子とその弟子の孟子らがたてた教え。人の上下関係をきびしく定め、臣下は王に、女子どもは家長に服従せよと主張した。儒教は日本や朝鮮に伝わり、韓国では今日でも道德の基本となっている。

孔子

(B.C.552年～B.C.479年)

春秋時代末、魯の国の没落貴族の家に生まれた。役人をやめて諸国を回り、政治の理想を説いたが受け入れられず、故郷に帰って教育活動に専念した。弟子は3000人、特に優秀な者72人といわれる。乱れた世の中を治めるために、仁＝人に対する思いやりが最も大切であると唱えた。彼の言行は、弟子たちが編集した『論語』に記録されている。